

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

2018年のメインシナリオとしては、サプライズな弱い米指標や米政策期待の後退、北朝鮮問題やロシア疑惑などを材料に投機筋のポジション調整による短期的な反落を繰り返しながらも緩やかなドル上昇が続くものの、上値のターゲットは118~120円程度のいうものに変更はありません。リスクシナリオとして、ドル上昇方向では、想定以上の米成長率の増加やインフレ率の加速によって長期金利が上昇する場合で、その場合には120円を超えるドル高の可能性、ドル下落方向のリスクシナリオとしては、北朝鮮との軍事衝突、米中間選挙での共和党の大敗、または日銀の政策スタンスの変化などがあつた場合には100~105円を試すリスクを考えてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げています。

トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動すること

ドル/円相場のトレード戦略

に署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどが想定外のドル安要因となったと思われます。

ただし、年初からのドル安は積み上がった円売りポジションの調整であり、基本的なシナリオは、まだ変更する必要のないものと考えています。

■短期展望

先週は、週初にトランプ政権の保護貿易主義への警戒感や日銀の政策変更観測を受けて 108 円 42 銭の安値を付けたものの、その後は FOMC で 3 月利上げが示唆されたこと、ムニューシン米財務長官がドル安誘導の意図はないと発言したことなどでドルは値を戻し、週末の米雇用統計が良好な結果だったことを受けて 110 円台を回復して週を越えています。

今週は方向感のないもみあい相場が予想されます。

先週の 108 円台からの反発で下値の堅さを確認したものの、急落前の 111 円水準には戻っておらず、上値の重さも続くことが予想されます。

また、米つなぎ予算の期限が 8 日であり、これも相場に不透明感を与えドルの上値を抑制する要因となりそうです。

したがって、今週は 108 円 50 銭～110 円 50 銭のレンジを予想します。